

主題：一主イエス・キリストの心を心とせよー

2021/5/12

目標：一ご自分の命さえ与えて下さる主イエスの心を知り、同じような心を与えられることを信じるー

キリスト伝

I ガリラヤ伝道③

「主イエスの心」

マルコ1:36～45 p67

ルカ5:12～16 p118

今のように情報伝達の方法がない昔、真の救い主が来られても、その事を知らないで、救いを求めながらも得られず、人生を送らなければならない多くの人がいた。

主イエスは救い主であるご自分を現すために、ガリラヤ地方の村や町に出かけようとしておられた。しかし、主イエスのしなければならないことは、その前にまず誰もいない寂しいところで、祈ることである。三位一体の神であられる主イエスは、絶対に、父なる神、聖霊なる神と一つとなり、祈りにおいて交わられるときを必要とされた。ここに主イエスの力の源がある。主イエスの心とは、共におられる父なる神、聖霊なる神の心である。

二週間程のガリラヤ伝道であったが、その中で特に、強烈な驚きを与えた事件はツアラアト冒された人の癒しである。ツアラアト感染者特有の様相、病気でフラフラする足取り。主イエス目指して歩く彼に気づいた人々はウワッ！と言って2、3m飛び退く。石を投げられようと、何をされようと、主イエスにたどり着きたい一心の彼は、捨て身で主イエスの憐れみに賭けた。主イエスは罪に汚れ、悲しい病の彼を憐れみ、触り完全に癒されたのである。

主イエスの心とは憐れみの心である。それは十字架の心でもある。ご自分の全てを最後の一滴まで与えようとして下さる心である。しかし、この心は主イエスだけのものではない。十字架によって与えられた神様との交わりの道を通して、ご聖霊が私たちの内に住んで下さり、信仰により、私たちにも主イエスの心を与えられるのである。

【聖書の学び】

ハンセン病と類似した病のツアラアトは、罪を冒した原因により発症すると聖書に書かれている。伝染病として恐れられ、感染者が近づいた場合、石を投げてもかまわないと差別されていた。

I、祈りから始まる伝道

(マルコ1:35～39)

1、群衆に囲まれ、忙しかった安息日の翌日、主イエスはどのように過ごされましたか。

①時間---

②場所---

2、わざわざ、どうしてそのようにされなければならなかったのでしょうか。

3、探しに来た弟子たちに、主イエスは何と言われたのでしょうか。(マルコ1:38)

4、主イエスがご自分を現された目的は何なのでしょうか。

Ⅱ、ツアラアトに冒されている人

(マルコ1:40～31、ルカ5:12～16)

1、罪による病気、ツアラアトに冒されている人の状態はどのようなものでしょうか。
(ルカ5:12)

①精神的

②肉体的

2、当時も伝染病として、ツアラアトに冒されている人は隔離されていました。

①ツアラアトに冒されている彼に対して、健康な人々の目はどのようなものでしょうか。

②彼が聞いた情報はどのような情報だったのでしょうか。(マルコ1:34)

③彼はどのような思いで、群衆に囲まれる主イエスのところに来たと思いますか。
彼は主イエスの心をどうとらえていたと思いますか。

3、癒しの後、主イエスが命じられた事があります。なぜ、そのように言われたのでしょうか。
(マルコ1:43、4)

①誰にも話してはならない。(マルコ1:44)

②律法による感謝のささげ物(レビ記14:2～32)

4、あなたは主イエスの心を、どのような心だと思いますか。

Ⅲ、祈りにより終える伝道 (ルカ5:16)

1、祈りにより始められた伝道旅行は、どのようにして、終えられたのでしょうか。
(ルカ5:16)

2、ここから、主イエスの全ての御業は何によって成されたことが分かりますか。

* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。